

中高生地域貢献活動グループ 大田 JO いんつ♪ 「第3ステージ」

大田市立中央公民館

～課題解決に向け、連携！連動！実践！若者の力を結集し、新たな次世代リーダーの育成～

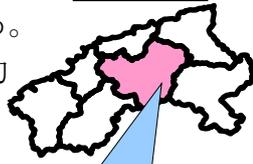
1 中央ブロック地区の概要

大田市立中央公民館は市の中心部に位置し、商業地域である大田町と農村・山村地域である川合町、久利町、大屋町の4つの町がブロック内にあり、各町にあるまちづくりセンターと連携しながら

大田市

各種事業に取り組んでいる。

ブロック内の人口は、約11,800人で、市の人口の33%を抱える地域である。



中央ブロック

その中には、高校1校、中学校1校、小学校3校があり、児童・生徒数の合計は約1,470名である。

2 事業の趣旨

(1) 地域の課題

ア 地域活動参加者の高齢化、若者の流出、担い手不足が深刻化している。また、世代間のつながりの希薄化や若者の社会参画の場がない、若い世代の意見が反映されにくいなど、次世代への継承が硬直化している。

(2) 現状

ア 大田市内の中高生を中心に、平成25年度に結成された地域貢献活動グループ

「大田 JO いんつ♪」の活動は5年目をむかえ、これまでは地域のイベントへの出店や若手議員さんとの「トーク会」等を開催し、地域住民の認知度、メンバーの活動意欲の向上等、少しずつ成果が上がってきた。

イ 一方、大きな課題として「やらされる活動」から「メンバー自らが考え主体的に取り組む活動」へと転換していく必要がある。

(3) 「第3ステージ」のねらい

ア 青少年や若者が主体的に地域活動に参画できる環境を整備し、地域総がかりで次世代を担う若者を育てる気運を高めながら“地域を愛し・支え・創る”担い手の育成を目指す。

イ 若者の意見を地域づくりに反映させていくためにも活動の幅を広げ、世代を越えて共に動き出す地域住民を増やしていく。

3 具体的な取組内容

「大田 JO いんつ♪」と「若者」が連携・連動・実践できる環境を整備し、課題解決につながる「実践の場」を設けることで、意欲ある次世代の担い手の育成を目指す。

(1) 定例ミーティングの「語りの場」

ア 毎月の「しまね家庭の日」を利用し、メンバーが主体的に活動の企画・立案などを行った。



(定例ミーティング)



(SHIGOMBOと一緒に)

イ 若者地域活動グループ「SHIGOMBO」がサポーターという立場で話し合いに参加し、アドバイスや支援を行った。

(2) 実践発表等による「学びの場」

ア 「青少年育成県民運動推進フォーラム」「子ども地域活動推進事業」報告会に大田 JO いんつ♪メンバーがパネラーとして壇上で発表を体験。休憩時間には「JO

いんつ♪カフェ」でコーヒーのおもてなし、受付、会場の片付けを手伝った。先進地グループの事例を学ぶ機会となり、新たな取組につながる貴重な体験となった。



(壇上で発表する子どもたち)

(3) 世界遺産登録10周年記念「オペラ石見銀山公演」味力フェスティバルに出店。

ア オペラ鑑賞には県内外から合わせて2,000人の来場者があり、かき氷と綿菓子はあっという間に完売。メンバーは地域の人と一緒に、10周年イベントを祝いふるさとの宝を再認識した。(石見銀山味力フェスティバルに協力)



(4) 地域課題解決に向けた取り組み

昨年、市議会議員と大田JOいんつ♪、地域住民と「トーク会」を開催し「大田の駅前や商店街の空き店舗が多くなり何だか寂しい」「若者の集う場や楽しむ場が無い」などの課題解決に向け、取組を行った。

ア SHIGOMBOから駅通り商店街「土曜夜市復活イベント」の誘いがあり、大田JOいんつ♪はポップコーンの販売や人手の足りない商店街のブースを手伝い祭りを盛り上げた。



(土曜夜市復活イベントに協力)

イ 若者の集う場、子どもたちの楽しむ場を！とSHIGOMBO、大田JOいんつ♪の若者新企画「メリーコスプレマス」イベントを企画し、メンバーも人気お笑い芸人やゲームやアニメのキャラクターなど

に仮装し、地域の子どもの遊びをスタッフとして指導を行った。



(メリーコスプレマスを楽しむ地域の子どもたち)

(5) 情報発信を行う「実践の場」

ア 市民の祭り「天領さん」の中で『お化け屋敷』を企画し、事前の準備から当日の運営全てをメンバーが担当し、親子連れや子どもたち約700名が来場し、楽しんだ。

4 評価と成果

(1) 20代～30代若者地域活動グループSHIGOMBOと連携することで活動の幅が広がり、アドバイスや支援により活動が充実した。

(2) 青少年と若者が一緒になって大田市の現状を知り、自ら課題解決に取り組もうとする意欲が生まれ、新たな活動の創出につながった。

(3) 大田JOいんつ♪が積極的に他団体と連携した取り組みを進めることにより、まちづくりに新たな風が吹きこまれ、地域住民のまちづくりに対する関心が高まった。

5 今後の課題と見通し

(1) 大田JOいんつ♪に参加してくれる新メンバーの確保と主体的な活動の継続。

(2) 青少年がいつでも・どこからでも・だれもが集まって活動できる“居場所”づくりを行いたい。また、活動を継続することでジュニアリーダーが中高生リーダーに、中高生リーダーが将来の地域リーダーになる人材育成の循環型“絆”社会の構築につながると考え、新たな仲間を増やしながら引き続き活動を継続していきたい。

(文責：大田市立中央公民館 伊藤裕子)